sì gūniang shān
四姑娘山 写真だより No.㉕

女王谷の春節行事

写真と文／
四姑娘山自然保護区管理局特別顧問
大川 健三

大晦日に囲炉裏端で厄除けの呪文を唱えながら松の枝を焚き煙で家を清めます。

正月３日、集落の人達が広場に集まって新年の挨拶を交わし、村対抗でバスケットボールや綱引きをして親睦を深めます。

正月元日、屋上で松の枝を焚いて狼煙を上げながら法螺貝を吹き新年の無事を祈ります。

農業暦の春節には女王谷（現在ギャロンと呼ばれる地域のチベット語の原名 “rGyalmorong” の意訳）の各地で伝統行事が開かれます。特に四姑娘山の西側下流に在る丹巴の伝統行事は古い文化を良く残しているため強く惹かれる物が有ります。 この丹巴で今年撮影した春節の行事を写真でご紹介します。 なお写真は無いですが、 正月元日０時には集落の各家から連発の打上げ花火が一斉に上がり大変綺麗です。これは数年前から定着した新しい行事です。

集落で開かれるお祭りで厄払いする村人。ボン教僧侶に清水を松の枝を使って頭に振り掛けて貰ったり（**写真左**）、日本のどんど焼きに似た行事（**写真右**）、も行います。但し時期は小正月とは限らず集落によって異なります（ギャロンでは色々な時代に色々な部族が入り込んでいて歴史・言葉・民族衣装が少しずつ違います）。

女王谷はチベット文化圏に有るので農業暦の春節（今年は1月23日）よりもチベット暦の正月（今年は2月22日）に盛大な行事が有るのではないか？ と思われる方がいらっしゃるかも知れません。チベット暦はお寺等で生きていて農耕を主とするギャロンの人達の意識にも有ります。お寺の開山や宗祖生誕を祝う時はチベット暦に拠りますが、農業暦の日和や農家の仕事の都合を考慮して変わります。しかし他のお寺の法会や農家の行事は農業暦の立春や立夏等に行われる事が多いです。女王谷のチベット暦の正月ではほとんどの場合、お寺で小規模な法会が有ったり一部の農家で簡単な儀式を行う程度です。この状況は農耕を主としている事（四姑娘山麓で見られる半農半牧はギャロン全体で見ると少数派です）と250年前の金川戦役に関わりが有るようです。

しかし同じ女王谷であっても高所でヤクの放牧を主とするアムド系の集落ではチベット暦の正月を祝う家が有るそうです。

日本の農家でも戦前は旧暦の正月を祝っていましたが今では廃れました。女王谷でもチベット暦から農業暦へ、やがては農業暦から太陽暦へ移行して行くのでしょう。

本題から外れますが、最近の状況について補足します。農業暦の春節に四川省奥地のチベット族自治区域で治安問題が発生して新聞ＴＶでお騒がせしましたが、四姑娘山や丹巴は平穏です。現在のところ一般の外国人は入れなくなっていますが､5月からは大丈夫と聞いております。

上の写真３つは宗教的な踊り。女王谷ではボン教でもラマ教でもほとんど同じ踊りです。

ラマ寺で開帳した大きな仏画（タンカ）に参拝する村人。

お寺のお祭りに集まった近在の村人。

経文を頭を触れて貰って賢くなりますようにと祈る子供達。

ラマ寺の本尊の観音像に参拝する村人。

●大川さんのホームページはこちら

▶ **蜀山女神、四姑娘**
http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm

▶ **ヒマラヤ横断山脈の女王谷**
http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm